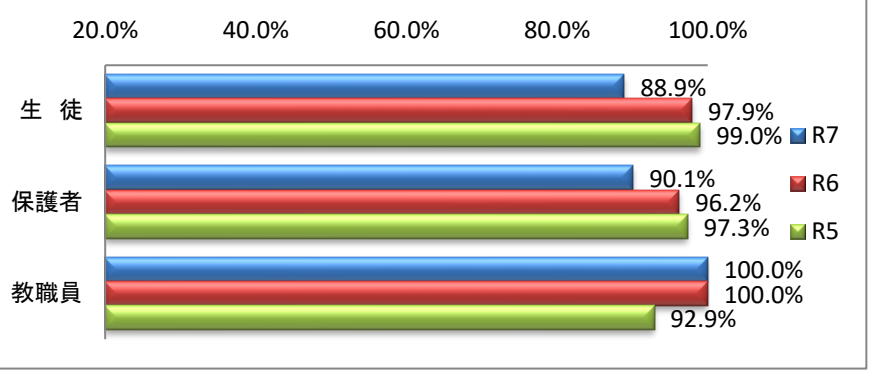
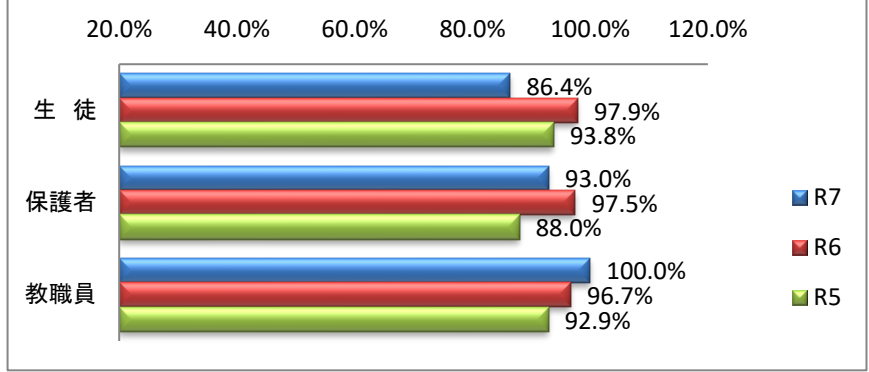
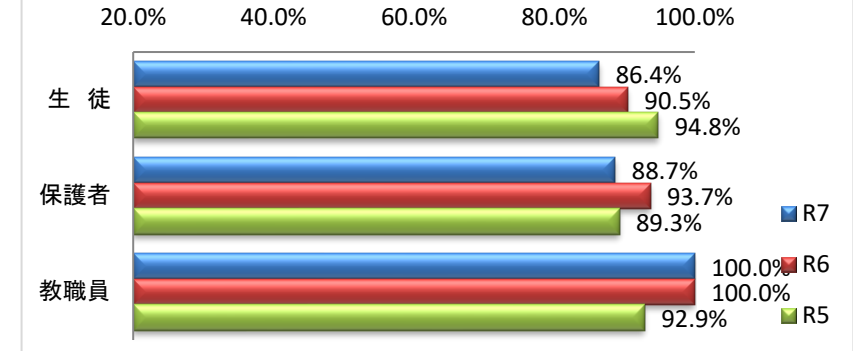
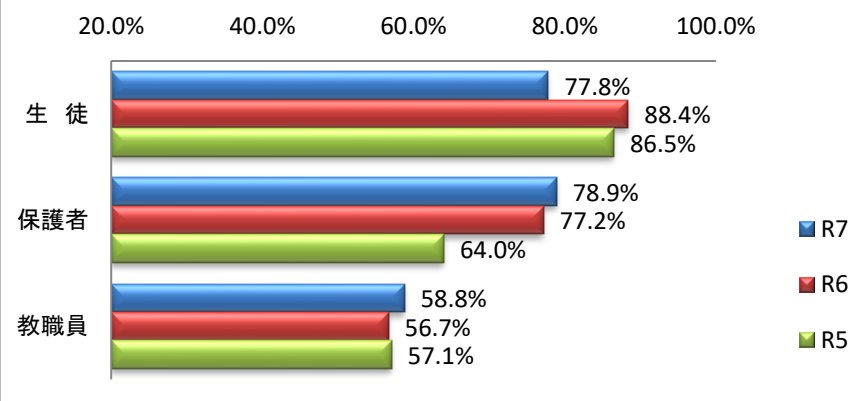


令和7年度 学校評価結果の考察と改善策

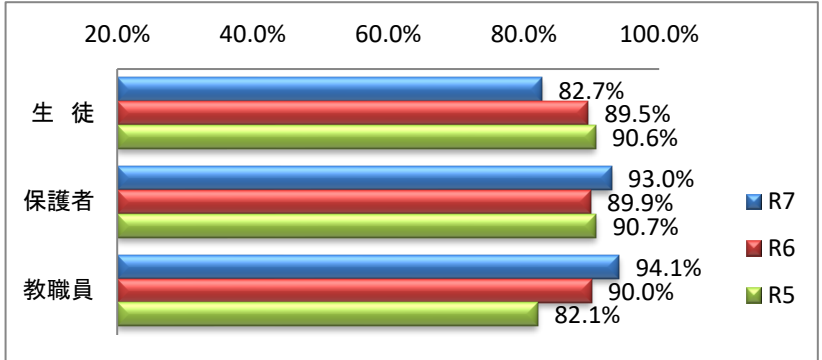
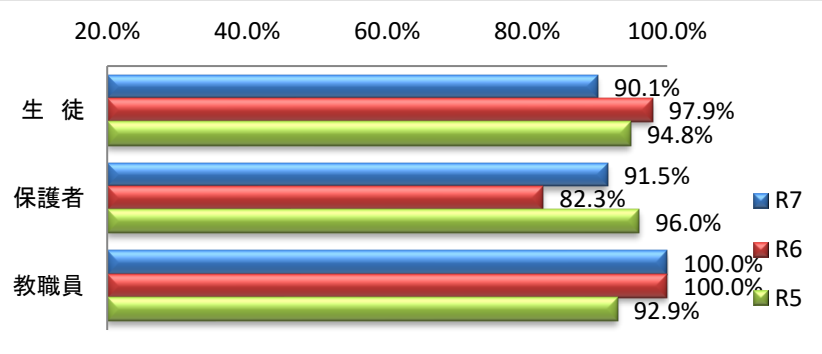
宮城県松山高等学校

	評価項目	肯定的意見(よく出来ている, 大体できている)の割合(%)																
1	学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている	 <table border="1" data-bbox="544 405 1417 775"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7 (%)</th> <th>R6 (%)</th> <th>R5 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>88.9%</td> <td>97.9%</td> <td>99.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.1%</td> <td>96.2%</td> <td>97.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>92.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果の考察】 今年度は昨年度と比べ生徒・保護者に関しては5～10%の低下がみられるものの90%程度の肯定的評価が得られている。</p> <p>【次年度への改善策】 教育課程に関しては大きな変更は今後行うことはできないが、学年の減少に伴い、不具合が生じないように、教育課程委員会などで検討していきたい。</p>	対象者	R7 (%)	R6 (%)	R5 (%)	生徒	88.9%	97.9%	99.0%	保護者	90.1%	96.2%	97.3%	教職員	100.0%	100.0%	92.9%
対象者	R7 (%)	R6 (%)	R5 (%)															
生徒	88.9%	97.9%	99.0%															
保護者	90.1%	96.2%	97.3%															
教職員	100.0%	100.0%	92.9%															
2	生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている	 <table border="1" data-bbox="544 1173 1417 1543"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7 (%)</th> <th>R6 (%)</th> <th>R5 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>86.4%</td> <td>97.9%</td> <td>93.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>93.0%</td> <td>97.5%</td> <td>88.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>96.7%</td> <td>92.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【結果の考察】 教職員では3年連続で上昇しているが、生徒・保護者は昨年より若干低下した。しかし、依然として85%以上の肯定的評価が得られている。これは本校で実施しているUDLの視点を取り入れた授業の成果といえると考えられる。</p> <p>【次年度への改善策】 次年度も引き続きUDLの視点を取り入れた授業実践を実施していき、授業改善に取り組んでいきたい。</p>	対象者	R7 (%)	R6 (%)	R5 (%)	生徒	86.4%	97.9%	93.8%	保護者	93.0%	97.5%	88.0%	教職員	100.0%	96.7%	92.9%
対象者	R7 (%)	R6 (%)	R5 (%)															
生徒	86.4%	97.9%	93.8%															
保護者	93.0%	97.5%	88.0%															
教職員	100.0%	96.7%	92.9%															

3	生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>84.0%</td> <td>92.6%</td> <td>90.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>85.9%</td> <td>87.3%</td> <td>86.7%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>85.3%</td> <td>90.0%</td> <td>75.0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	R7	R6	R5	生徒	84.0%	92.6%	90.6%	保護者	85.9%	87.3%	86.7%	教職員	85.3%	90.0%	75.0%
対象	R7	R6	R5															
生徒	84.0%	92.6%	90.6%															
保護者	85.9%	87.3%	86.7%															
教職員	85.3%	90.0%	75.0%															
<p>【結果の考察】</p> <p>指導方法を変更して2年目となる。挨拶やマナーなどについて自ら改めていく形をとっているが、一部生徒に浸透していないと考えられる。また頭髪や服装などについて一部乱れている生徒がいるため、生徒の肯定的意見が低いと考えられる。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>昨年度より開始した、一つ一つ注意するのではなく、周りを見て自ら気づいて直していく形は継続したい。ただし、1年生に関してはわからない生徒も多いのではじめは細かく教えていく必要がある。</p>																		
4	生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>92.6%</td> <td>96.8%</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>88.7%</td> <td>91.1%</td> <td>84.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>90.0%</td> <td>85.7%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	R7	R6	R5	生徒	92.6%	96.8%	96.9%	保護者	88.7%	91.1%	84.0%	教職員	100.0%	90.0%	85.7%
対象	R7	R6	R5															
生徒	92.6%	96.8%	96.9%															
保護者	88.7%	91.1%	84.0%															
教職員	100.0%	90.0%	85.7%															
<p>【結果の考察】</p> <p>教職員評価 100%をはじめ生徒・保護者ともに高い水準で高止まりしている。生徒への指導や保護者への情報提供、教職員への認知がある程度評価されているものと判断できるのではないかと。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>就職生徒の支援や校内合同企業説明会など、まだ改善の余地が残っているものについては、よりよいものを提供できるよう改善に取り組みたい。また3月の「ちゃれんじ松高生」については時間的に余裕ができれば、アイデアを生かした新しい試みを積極的に入れていきたい。</p>																		

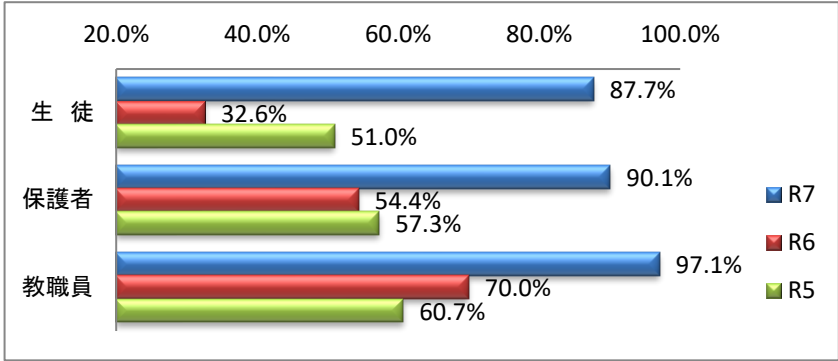
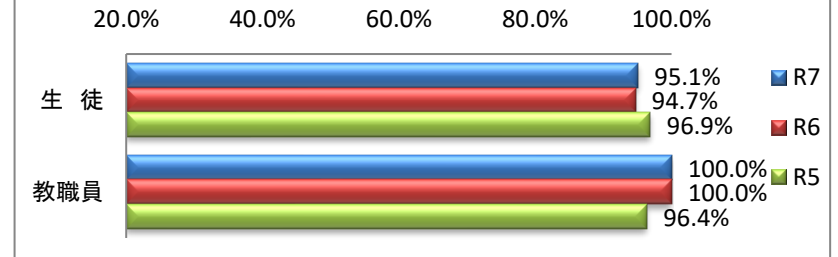
5	生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>86.4%</td> <td>90.5%</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>88.7%</td> <td>93.7%</td> <td>89.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>92.9%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	86.4%	90.5%	94.8%	保護者	88.7%	93.7%	89.3%	教職員	100.0%	100.0%	92.9%
対象者	R7	R6	R5															
生徒	86.4%	90.5%	94.8%															
保護者	88.7%	93.7%	89.3%															
教職員	100.0%	100.0%	92.9%															
<p>【結果の考察】 相談する体制はできており、教員やカウンセラーなどに対する相談も適宜行っている。相談した後の対応の早さや、内容についても含んだ結果になっていると考えられる。</p> <p>【次年度への改善策】 相談する体制はできているので、継続したい。またその後の対応についてはチームとして対応できるよう、情報の共有をこまめに行い、個人での抱え込みによる遅滞を減らすよう努めたい。</p>																		
6	学校として、部活動は活発に行われている	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>77.8%</td> <td>88.4%</td> <td>86.5%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>78.9%</td> <td>77.2%</td> <td>64.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>58.8%</td> <td>56.7%</td> <td>57.1%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	77.8%	88.4%	86.5%	保護者	78.9%	77.2%	64.0%	教職員	58.8%	56.7%	57.1%
対象者	R7	R6	R5															
生徒	77.8%	88.4%	86.5%															
保護者	78.9%	77.2%	64.0%															
教職員	58.8%	56.7%	57.1%															
<p>【結果の考察】 昨年度と部活動の練習日程、実績等は変化がない。しかし、今年度はもっと部活動をやりたい、大会に参加したいという生徒が多く、現状の活動では満足できていない状況から肯定的評価が下がったと考えられる。</p> <p>【次年度への改善策】 部活動の練習・活動日の設定を見直し、各部とも現在の部員に合った練習、活動内容にする。また、体育館の使用に関して顧問会議で調整を行い、練習日が確実に確保できるようにする。</p>																		

<p>7 学校として、生徒会活動は活発に行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>80.2%</td> <td>92.6%</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91.5%</td> <td>87.3%</td> <td>93.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.1%</td> <td>93.3%</td> <td>82.1%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	80.2%	92.6%	95.8%	保護者	91.5%	87.3%	93.3%	教職員	94.1%	93.3%	82.1%
対象者	R7	R6	R5														
生徒	80.2%	92.6%	95.8%														
保護者	91.5%	87.3%	93.3%														
教職員	94.1%	93.3%	82.1%														
<p>【結果の考察】</p> <p>生徒会は昨年より自主的に活動している。自ら考え。計画を練って活動している。ただし、委員会活動に関しては外部との関わりをもつなど積極的な委員会もあるが、仕事が限定的な委員会もあり、その結果10%程度の減少という結果になったと考えられる。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>委員会集会で委員会の仕事内容と分担を明確化し、各生徒が委員会の仕事に責任をもてるようにする。生徒人数が少なくなってくるため、委員会の精選、委員会兼務なども検討する必要がある。</p>																	
<p>8 生徒にとって、有意義な学校行事がある</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>76.5%</td> <td>95.8%</td> <td>89.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91.5%</td> <td>92.4%</td> <td>92.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	76.5%	95.8%	89.6%	保護者	91.5%	92.4%	92.0%	教職員	100.0%	100.0%	100.0%
対象者	R7	R6	R5														
生徒	76.5%	95.8%	89.6%														
保護者	91.5%	92.4%	92.0%														
教職員	100.0%	100.0%	100.0%														
<p>【結果の考察】</p> <p>教職員・保護者は例年と変わらずに高い肯定的評価であるが、今年度の生徒に関しては昨年に比べ20%の減少となった。これはクラスの雰囲気や人間関係などが影響していると考えられる。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>クラス、学年などで引き続き粘り強く、改善に向けた取り組みを進めていく必要があると考える。</p>																	

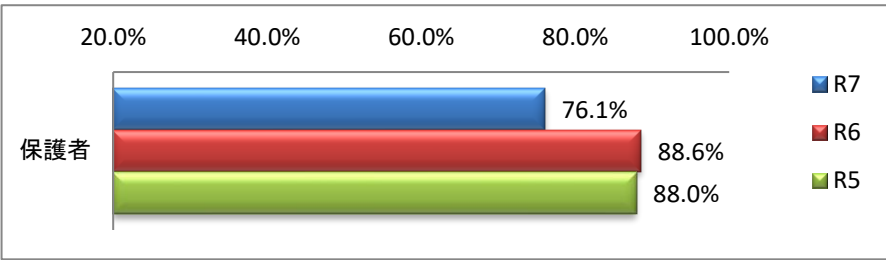
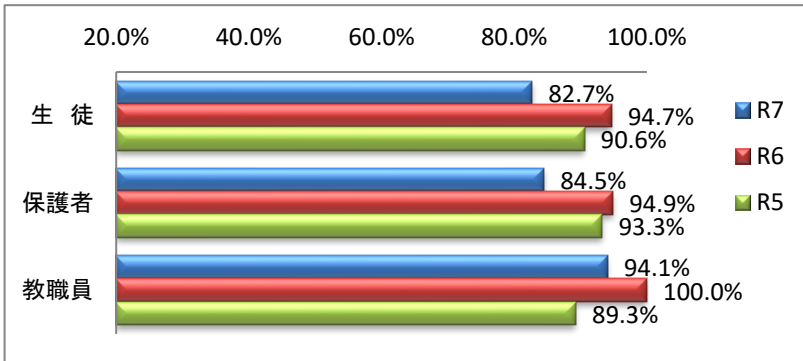
<p>9 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>82.7%</td> <td>89.5%</td> <td>90.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>93.0%</td> <td>89.9%</td> <td>90.7%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.1%</td> <td>90.0%</td> <td>82.1%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	82.7%	89.5%	90.6%	保護者	93.0%	89.9%	90.7%	教職員	94.1%	90.0%	82.1%
対象者	R7	R6	R5														
生徒	82.7%	89.5%	90.6%														
保護者	93.0%	89.9%	90.7%														
教職員	94.1%	90.0%	82.1%														
<p>【結果の考察】</p> <p>地域とのかかわりをあまり感じていない生徒が昨年度と比べて多い。放課後児童クラブ読み聞かせや地元保育施設での実習など地域とかかわる行事が多くあるが、生徒へうまく伝わっていないことが考えられる。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>地域とのかかわりを感じていない生徒が多くいるので、地域と一緒にしている行事について、生徒にわかるように説明・広報していきたい。具体的には1年施設見学で伝統産業である酒造りについて学んでいること、地域でのボランティア活動の案内、夏祭りや邑まつりなどの地域の行事への参加などを生徒に伝わるように広報したい。</p>																	
<p>10 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>90.1%</td> <td>97.9%</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91.5%</td> <td>82.3%</td> <td>96.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>92.9%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	90.1%	97.9%	94.8%	保護者	91.5%	82.3%	96.0%	教職員	100.0%	100.0%	92.9%
対象者	R7	R6	R5														
生徒	90.1%	97.9%	94.8%														
保護者	91.5%	82.3%	96.0%														
教職員	100.0%	100.0%	92.9%														
<p>【結果の考察】</p> <p>昨年度の反省を踏まえ、防災だよりの発行と e メッセージの活用で生徒・保護者と情報共有に努め、保護者からは一定の理解を得ることができた。6月の避難訓練は、熊の出没により集団下校に変更し、その後も十分に本校の防災体制についての説明する機会を設けることができなかった。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>防災だよりの発行と e メッセージの活用で、引き続き生徒・保護者へ防災情報の共有に努める。避難訓練や研修会を継続し、防災意識を高める工夫を今後も続けたい。年2回の避難訓練以外にも、防災教育の機会を増やし、生徒・保護者と情報の共有に努める。</p>																	

<p>11 保護者に対して、学校だよりなどによって、学校の情報は適切に伝えられている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>91.4%</td> <td>93.7%</td> <td>93.8%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>95.8%</td> <td>92.4%</td> <td>94.7%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>96.4%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	91.4%	93.7%	93.8%	保護者	95.8%	92.4%	94.7%	教職員	100.0%	100.0%	96.4%
対象者	R7	R6	R5														
生徒	91.4%	93.7%	93.8%														
保護者	95.8%	92.4%	94.7%														
教職員	100.0%	100.0%	96.4%														
<p>【結果の考察】</p> <p>松高だよりやHP、広報紙に加え、防災だよりを発行し、広報活動を活発に行った。さらに、eメッセージで保護者と情報共有し、本校の教育活動の理解促進に努め、三者から90%以上の高評価を得ることができた。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>引き続き、配布の工夫や紙面にアクセスするための仕掛けを取り入れ、生徒・保護者および教職員と情報の共有に努める。</p>																	
<p>12 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>80.2%</td> <td>78.9%</td> <td>78.1%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>77.5%</td> <td>78.5%</td> <td>65.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>97.1%</td> <td>86.7%</td> <td>75.0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	80.2%	78.9%	78.1%	保護者	77.5%	78.5%	65.3%	教職員	97.1%	86.7%	75.0%
対象者	R7	R6	R5														
生徒	80.2%	78.9%	78.1%														
保護者	77.5%	78.5%	65.3%														
教職員	97.1%	86.7%	75.0%														
<p>【結果の考察】</p> <p>生徒、職員について、年々数値が上がっているのは、老朽化は進んでいるものの、工事や修繕は、必要な部分是对応ができていると感じているからだと思う。保護者の割合が昨年度より若干下がっているのは、老朽化による見た目の部分が多いのではないかと推察される。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>引き続き、生徒の安全と学習環境の整備については、早期対応できるよう努めていく。閉校との兼ね合いで、本庁側から整備や予算について制限がかかることも考えられるが、最終年度まで、良好な学習環境を維持できるよう努めていきたいので、気づいたことがあれば相談してください。</p>																	

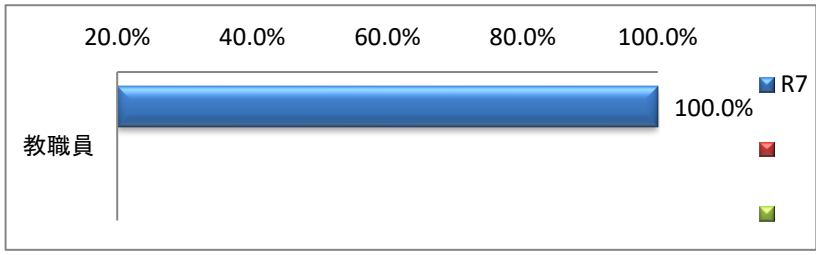
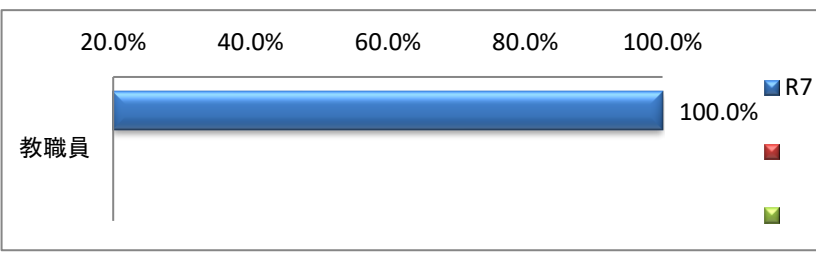
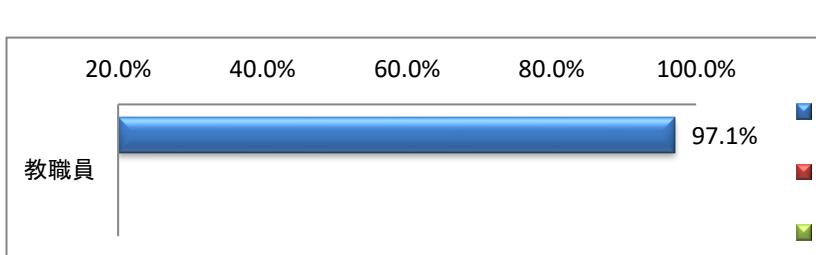
<p>13 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>67.9%</td> <td>83.2%</td> <td>85.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>74.6%</td> <td>86.1%</td> <td>77.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	R7	R6	R5	生徒	67.9%	83.2%	85.4%	保護者	74.6%	86.1%	77.3%	教職員	100.0%	100.0%	100.0%
対象	R7	R6	R5														
生徒	67.9%	83.2%	85.4%														
保護者	74.6%	86.1%	77.3%														
教職員	100.0%	100.0%	100.0%														
<p>【結果の考察】 各学年からの報告、S C、S S Wの報告等を共有し、対応する体制は整えている。しかし、情報共有はできていたが、対応が不十分な案件があった。そのことが大幅に数値を下げている原因だと考える。</p> <p>【次年度への改善策】 各学年からの報告、情報共有は継続していく。また、各学年に対し、抱え込みを防ぐため、生徒指導部との合同会議、いじめ問題対策委員会の適切な開催により、組織的に対応することを全教職員に周知する。</p>																	
<p>14 生徒にとって、学校生活は充実している</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>70.4%</td> <td>89.5%</td> <td>81.3%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>80.3%</td> <td>92.4%</td> <td>84.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>97.1%</td> <td>100.0%</td> <td>89.3%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	R7	R6	R5	生徒	70.4%	89.5%	81.3%	保護者	80.3%	92.4%	84.0%	教職員	97.1%	100.0%	89.3%
対象	R7	R6	R5														
生徒	70.4%	89.5%	81.3%														
保護者	80.3%	92.4%	84.0%														
教職員	97.1%	100.0%	89.3%														
<p>【結果の考察】 生徒・保護者共に過去3年間で最も低い値となった。特に生徒の値は昨年から20%弱も低くなっている。これは人間関係のトラブルからの影響が学校生活の充実度へと反映しているものと推察する。</p> <p>【次年度への改善策】 次年度に向けては、全職員がアンテナを高くして、生徒の変化や相談に迅速に対応をしていけるよう、生徒との信頼関係構築を目指したい。また、学びのユニバーサルデザインを意識した授業づくりやソーシャルスキルトレーニング活動等を通し、生徒の自主性や社会性、意欲や達成感を引き出すことができるような学校行事企画を計画していきたい。</p>																	

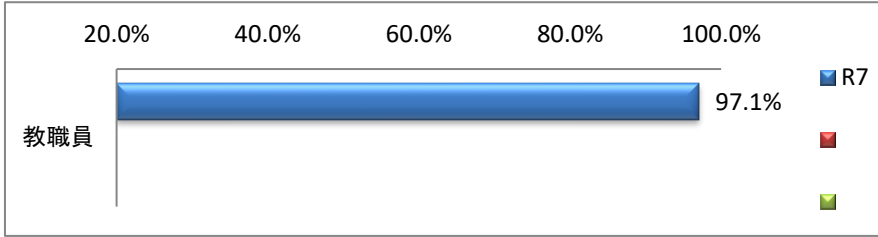
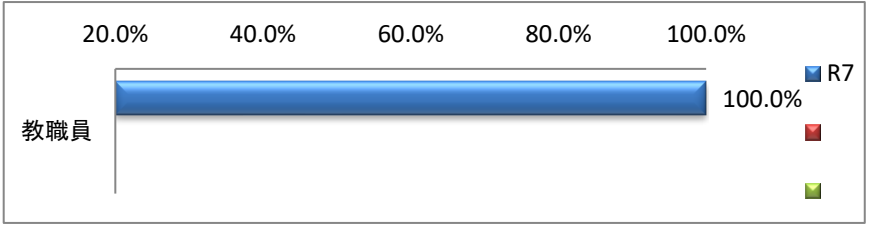
15	<p>学校のウェブサイト（ホームページ）は定期的に更新されている</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>87.7%</td> <td>32.6%</td> <td>51.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.1%</td> <td>54.4%</td> <td>57.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>97.1%</td> <td>70.0%</td> <td>60.7%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	87.7%	32.6%	51.0%	保護者	90.1%	54.4%	57.3%	教職員	97.1%	70.0%	60.7%
対象者	R7	R6	R5															
生徒	87.7%	32.6%	51.0%															
保護者	90.1%	54.4%	57.3%															
教職員	97.1%	70.0%	60.7%															
<p>【結果の考察】</p> <p>過去2年間に比べ、肯定的な評価が大幅に上昇している。これは今年度積極的な更新を行ってきたことの表れといえる。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>この状態を維持できるよう次年度も積極的な更新に努める。</p>																		
16	<p>図書館は利用しやすく、読みたい本や必要な資料がそろっている</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>95.1%</td> <td>94.7%</td> <td>96.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>96.4%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	95.1%	94.7%	96.9%	教職員	100.0%	100.0%	96.4%				
対象者	R7	R6	R5															
生徒	95.1%	94.7%	96.9%															
教職員	100.0%	100.0%	96.4%															
<p>【結果の考察】</p> <p>学校図書館の環境や蔵書構成、公共図書館の団体貸出の活用等が、概ね、利用者ニーズに応えられていると考えられる。一方で、生徒では年度により微減が見られる。広報の不足や生徒の細かなニーズを十分に汲み取れなかったことが一因と考えられる。また、1年生の利用率が著しく低い現状がある。朝の読書アンケートからは読書離れの傾向がうかがわれ、学習場面で根拠の明らかな資料にあたり内容を読み解く力への影響も心配される。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>生徒の細かな要望を把握し、利用のハードルを下げるため、リクエストや広報活動の充実を図り、利用促進につなげていく。また、学習支援資料の拡充に努めるとともに、先生方との連携を深めながら、授業で活用しやすい図書館サービスを展開し、読書や資料活用の習慣化を支える環境づくりを進めていく。</p>																		

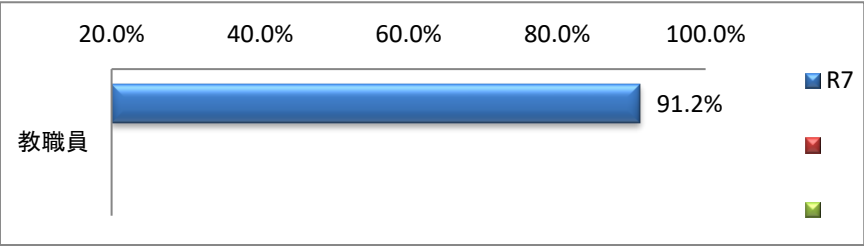
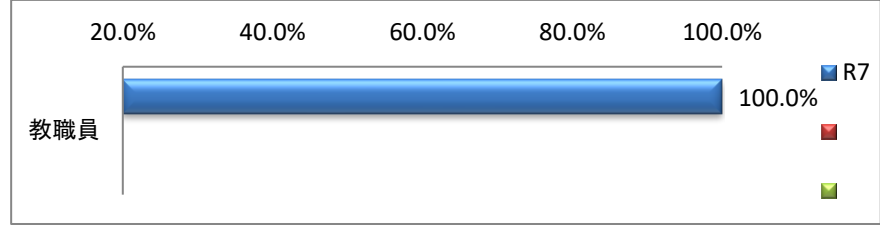
17	<p>家庭で、学校の様子をお子さんと話題にする</p>	<p>A horizontal bar chart with an x-axis from 0% to 100% in 20% increments. The y-axis lists '保護者' (Guardians). Three bars represent different response categories: R7 (blue, 98.6%), R6 (red, 88.6%), and R1 (green, 77.3%).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>98.6%</td> <td>88.6%</td> <td>77.3%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	R7	R6	R1	保護者	98.6%	88.6%	77.3%				
Category	R7	R6	R1											
保護者	98.6%	88.6%	77.3%											
<p>【結果の考察】</p> <p>過去3年から10%ずつ上昇し、今年は100%に近くの高評価をいただいている。多くの家庭において、学校について会話ができているということで、各家庭に感謝したい。このことが学校の教育活動への理解と家庭と学校との良好な連携につげられるものと推察している。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>引き続き、ご家庭でも学校の様子を随時話題にさせていただけるよう、eメッセージ等を活用して学校の様子がわかる情報発信を努めていきたい。</p>														
18	<p>クラスは授業に集中できる雰囲気となっている</p>	<p>A horizontal bar chart with an x-axis from 0% to 100% in 20% increments. The y-axis lists '生徒' (Students) and '教職員' (Teachers/Staff). For '生徒', three bars represent R7 (blue, 74.1%), R6 (red, 87.4%), and R5 (green, 90.6%). For '教職員', three bars represent R7 (blue, 100.0%), R6 (red, 96.7%), and R5 (green, 78.6%).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>74.1%</td> <td>87.4%</td> <td>90.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>96.7%</td> <td>78.6%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	R7	R6	R5	生徒	74.1%	87.4%	90.6%	教職員	100.0%	96.7%	78.6%
Category	R7	R6	R5											
生徒	74.1%	87.4%	90.6%											
教職員	100.0%	96.7%	78.6%											
<p>【結果の考察】</p> <p>いくつかのクラスにおいて人間関係のこじれに発する雰囲気悪さを訴える生徒がみられる。学年などで都度対応しているものの授業よりもそちらのことが気になるため、授業に集中できないという生徒が一定数みられるのが現状である。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>学年を中心に引き続き改善に向けた努力を行うとともに、SC、SSW、保健室などと連携して問題解決に努める。</p>														

19	保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>76.1%</td> <td>88.6%</td> <td>88.0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	R7	R6	R5	保護者	76.1%	88.6%	88.0%								
Category	R7	R6	R5															
保護者	76.1%	88.6%	88.0%															
<p>【結果の考察】 相談体制は整っているが、保護者に対して相談体制についてお知らせする場が入学説明会以降少ない。知る機会が少ないため10%程度の下降がみられたと考えられる。</p> <p>【次年度への改善策】 定期的なお知らせを保護者へ送付し、体制について知ってもらう必要がある。連休、長期休暇前などにお知らせすることにより、休業中、休業明けの相談にも対応できるようにする。</p>																		
20	学校行事（球技大会、文化祭等）をとおして、学校への帰属意識が高まっている	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>82.7%</td> <td>94.7%</td> <td>90.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>84.5%</td> <td>94.9%</td> <td>93.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94.1%</td> <td>100.0%</td> <td>89.3%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	R7	R6	R5	生徒	82.7%	94.7%	90.6%	保護者	84.5%	94.9%	93.3%	教職員	94.1%	100.0%	89.3%
Category	R7	R6	R5															
生徒	82.7%	94.7%	90.6%															
保護者	84.5%	94.9%	93.3%															
教職員	94.1%	100.0%	89.3%															
<p>【結果の考察】 学校行事では各学年とも楽しく、一生懸命に行っており、団結力、帰属意識は高まっていると考えられる。しかし、一部行事に関して積極的でない生徒もいるため、10%程度の下降がみられたと考えられる。</p> <p>【次年度への改善策】 学校行事に関しては特に変更する予定はないが、与えられた行事ではなく、生徒会を中心に自分たちで工夫改良できるような呼びかけ、教員からの支援を行っていきたい。</p>																		

21	<p>【家政科のみ】家庭科の基本的知識や家庭科の技術の習得ができる指導が行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>88.5%</td> <td>98.2%</td> <td>92.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>93.4%</td> <td>97.8%</td> <td>91.5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>92.9%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	R6	R5	生徒	88.5%	98.2%	92.9%	保護者	93.4%	97.8%	91.5%	教職員	100.0%	100.0%	92.9%
対象者	R7	R6	R5															
生徒	88.5%	98.2%	92.9%															
保護者	93.4%	97.8%	91.5%															
教職員	100.0%	100.0%	92.9%															
<p>【結果の考察】</p> <p>昨年度に比べて肯定的評価が下がっている。特に今年度の1年生は裁縫・調理技術について、良くできている生徒も自信を持ってない状態である。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>1年生で基礎・基本が定着するように、時間が許す限りより丁寧な指導に努める。基礎力の定着が自信につながり、さらに専門的な技術を身につけたいという動機につながられるよう指導していきたい。2・3年の各コースでは場面に応じて個別指導を丁寧に行うことで、より専門的な技術習得につながられるよう努める。</p>																		
22	<p>【家政科のみ】家政科では、地域・外部企業と連携し、職業人教育の充実を図っている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>85.2%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>97.1%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R7	生徒	85.2%	保護者	90.2%	教職員	97.1%								
対象者	R7																	
生徒	85.2%																	
保護者	90.2%																	
教職員	97.1%																	
<p>【結果の考察】</p> <p>地元スーパーのお弁当レシピ考案、邑祭り・ボラボー松山などの地域行事やイベントへの参加、地元保育施設での保育実習など様々な地域の方の協力をいただきながら教育活動を行っているが、あまりそれを感じない生徒が多くいると推察する。</p> <p>【次年度への改善策】</p> <p>現在行っている内容や地域とのつながりを意識して、授業展開をしながら生徒に知ってもらうための広報活動を心がけていきたい。</p>																		

<p>23 教職員は UDL の視点を取り入れて授業展開の工夫等、個に応じた学びを提供するよう心がけている</p>	 <p>A horizontal bar chart with a scale from 0.0% to 100.0% in 20.0% increments. A blue bar for '教職員' (Teachers) reaches the 100.0% mark. A legend on the right shows 'R7' with a blue square, a red square, and a green square.</p>
<p>【結果の考察】 昨年度までの県指定事業が終了し、今年度は自主公開授業に向け、学校一丸となった取り組みを行うことができたので高評価を得ることができたと考える。</p> <p>【次年度への向けて】 今年度の公開授業同様に次年度においても実施できるよう進めていければと考える。</p>	
<p>24 学校は SST を通じた主体的活動を推進し、個性の伸長を図れるような支援体制を整えている</p>	 <p>A horizontal bar chart with a scale from 0.0% to 100.0% in 20.0% increments. A blue bar for '教職員' (Teachers) reaches the 100.0% mark. A legend on the right shows 'R7' with a blue square, a red square, and a green square.</p>
<p>【結果の考察】 S S Tを積極的に行える体制は整っている。また、S S Tが授業に与える影響も大きく、個性の伸長にかかせない活動となっている。また、全体、学年で必要な活動を行えている。</p> <p>【次年度へ向けて】 現状の活動を継続していく。また、S S Tを行なう教員のスキルアップが今後の課題であるので研修、検討会等で改善したい。</p>	
<p>25 学校は生徒や保護者に対して SC や SSW、学年で連携し問題解決が図れるような支援体制を整えている</p>	 <p>A horizontal bar chart with a scale from 0.0% to 100.0% in 20.0% increments. A blue bar for '教職員' (Teachers) reaches the 97.1% mark. A legend on the right shows 'R7' with a blue square, a red square, and a green square.</p>
<p>【結果の考察】 S CやS S Wと学年は連携し、問題解決をできる支援体制はできている。その情報を各学年で共有し、支援をする体制は整っている。</p> <p>【次年度へ向けて】 S C、S S Wと学年は連携し問題解決を図れる支援体制ができているので、継続したい。</p>	

26	<p>進路指導は、担任、学年と連携し、キャリア教育の視点で一人ひとりに対応した自己実現に向かう指導を行っている</p>	 <p>A horizontal bar chart with a scale from 0% to 100% in 20% increments. A blue bar for '教職員' (Staff) reaches 97.1%. A legend on the right shows three categories: R7 (blue square), R6 (red square), and R5 (green square).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	教職員	97.1%	R7	97.1%	R6	0%	R5	0%
Category	Percentage											
教職員	97.1%											
R7	97.1%											
R6	0%											
R5	0%											
<p>【結果の考察】 教職員評価が高い水準である。生徒への指導や保護者への情報提供、教職員への認知がある程度評価されているものと推察される。</p> <p>【次年度へ向けて】 就職生徒の支援や校内合同企業説明会など、まだ改善の余地が残っているものについてはよりよいものを提供できるよう改善に取り組みたい。また3月の「ちゃれんじ松高生」については時間的に余裕ができれば、アイディアを生かした新しい試みを積極的に入れていきたい。</p>												
27	<p>学校は、会計処理において、複数の目で確認することを心がけ、迅速かつ適正な執行管理に努めている</p>	 <p>A horizontal bar chart with a scale from 0% to 100% in 20% increments. A blue bar for '教職員' (Staff) reaches 100.0%. A legend on the right shows three categories: R7 (blue square), R6 (red square), and R5 (green square).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	教職員	100.0%	R7	100.0%	R6	0%	R5	0%
Category	Percentage											
教職員	100.0%											
R7	100.0%											
R6	0%											
R5	0%											
<p>【結果の考察】 ほぼ肯定的な意見だったことは、会計処理において、大きなトラブルもなく、適切に執行管理が行われていると感じている方が多いと思われる。</p> <p>【次年度へ向けて】 今後も適切に処理が行われるよう協力して努めていければと思う。</p>												

28	<p>職場は文書の作成・整理・保管については、わかりやすさ・使いやすさに配慮し、校務処理が学校組織として共有できるようにしている</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>91.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	教職員	91.2%
Category	Percentage					
教職員	91.2%					
<p>【結果の考察】</p> <p>生徒等の個人情報管理徹底について、教職員の文書管理の徹底が求められているので、個人情報の取扱いについての認識の高さが反映している結果と受け止められる。</p> <p>【次年度へ向けて】</p> <p>閉校に向けて、組織的に誰が引き継いでもわかりやすい文書管理をしていくために、電子データの整理と管理、そして紙媒体の整理・廃棄・保管について、全職員の情報管理の意識向上をしていけるよう定期的に要点を読み合わせる等していく。</p>						
29	<p>職場は職務上での困難や問題点は速やかに同僚や管理職等に相談し、共有して改善策を見出せる職場づくりを心がけている</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	教職員	100.0%
Category	Percentage					
教職員	100.0%					
<p>【結果の考察と次年度に向けて】</p> <p>報告・連絡・相談を円滑に行い、かつ風通しの良い職場環境の実現として100%という成果につながっている。引き続き、風通しの良い職場環境として、個々の生徒に応じた、きめ細やかな指導の徹底と生徒の満足度を高める取組の充実を図れる組織的として努めていきたい。</p>						